樹梢霧海に消え入りてじゅしょう むかい きいい

時凋衰の風強し 難攻不落を誇りしも

北溟牙城の夏の宵はくめいがじょうなっている

古昔の意気に涙する 伝統の石に 佇みてったへいし たたず

貧交行の風寒し 秋の今宵の宴にも

> 極陵の二春に宿せる白露の ゆりょう にしゅん やど しらつゆ さにあらば吾等が友よ 生命短命にして吉しとするいのちみじか

崇厳に大志を告げるべく りまうげん たいし っ りである星に 今高らかに誓いけん

> 真理の郷は遠からじまこと 朔風如何に荒吹とも 迪をたずねる旅人よ 白雪深き北国にはくせつふか。きたぐに

几

いざ寮友ようたわなん

あすの生命を闘うと

万花乱るる春の日にばんかみだっと 高遠き大望を目指さんや たか のぞみ めざ

橋登 君 作歌

佐藤菊男君

作曲